

## 第2回 ぜろから始めるデジタル一眼レフ

ハナ勘デジカメ講座 2006

おかげさまで第1回の講座は好評でしたので、予定通り月1回のペースで開かせて頂くことになりました。毎月、第4水曜日を基本に行わせて頂きます。第2回は「レンズと露出の基本」です。一眼レフ用のレンズは、数多くの種類がありますが、何が違うのか？絞りとシャッタースピードの効果は？など、今回も基本中の基本の内容です。

### 第2回『レンズと露出の基本』

- ・レンズの種類（標準、広角、望遠、マクロとは）
- ・ズームレンズと単焦点レンズ
- ・デジタル一眼レフ専用レンズとは
- ・被写界深度とシャッタースピードの効果

\*日 時：5月24日(水) 18:00~19:30

\*会 費：¥1,000

\*定 員：15名

\*申 込：お電話、メール、店頭にて（お車で来られる方は、申込時にお知らせ下さい。）

## Nikon D200 使用レポート

前回に続いて D200 の使用レポートを書かせて頂きます（他にネタが無いのでご容赦を）。D200 は、従来のマニュアルレンズを装着して自動露出や TTL でのストロボ撮影が可能なのですが、これが本当にありがたいのです。D70 でも使うことはできるのですが、マニュアル露出でしか撮影できない上に、前回でも述べたピントの合せづらさで、実質、使用できません。実際にマニュアルの 180 / 2.8 のレンズで撮影して「ピンぼけ」ばかりになり、それ以来、D70 ではマニュアルレンズを使わなくなりました。D200 では、性能の良いファインダーのおかげでマニュアルレンズでもピントはバッチリで大助かりです。なぜ、マニュアルレンズにこだわるかと言いますと、まず、AF レンズは暗いズームレンズしかなくて、体育館など広い室内での撮影に不自由します。それから、ズームレンズの画質が良くなったとは言え、単焦点レンズの方が古くても圧倒的に画質が良いので商品撮影や大伸ばしを前提としたシビアな画質を求められる時には欠かせないのです。というわけで、マニュアルレンズの性能が十分に発揮できる D200 を使うと D70 には戻れません。さて、画質に関してなのですが、カメラの標準設定で撮影した画像をパソコンのモニターで単純に比べた場合、1000 万画素ある D200 の画像はピント（解像感）が甘く、ねむい画像に見えて、600 万画素の D70 や D50 の方がいいように見えます。これは、デジカメの重要なパーツに「ローパスフィルター」があるのですが、このローパスフィルターの調整と標準設定でのコントラスト・シャープネス（輪郭強調）の調整が違うためです。D70 と D50 は、一般ユーザーを対象としているので撮

影したままの画像の見た目を優先するため、ローパスフィルターの効果弱くしてコントラスト・シャープネスは強めになっています。ただし、ローパスフィルターの効果弱くすると「偽色・モアレ」といったデジカメ特有の欠点が出やすくなってしまいます（これには相当、悩まされました）。対して、D200 はプロやハイアマチュアを対象にしているため、後から補正することを前提にコントラスト・シャープネスは弱めに調整されています。ローパスフィルターも新開発の物で偽色・モアレの他、「赤外線かぶり」を極力、押さえています。これらの差で標準設定の画像の見え方に差があるのですが、D200 でも設定を強めにすれば、撮影したままの画像も見栄えは良くなりますが、後から補正するには不向きです。

次に、D200 と同時に発売されたレンズで D200 以上に人気を集めている「AF-S DX VR18~200」というズームレンズ（デジタル一眼レフ専用）について書かせて頂きます。ニコンが生産の追いつかないことをわざわざ詫言するほど注文が殺到しているのですが、人気の要因はフィルムカメラにすると 28~300 ミリ相当という焦点距離に加え、強力な手ブレ補正機能がついているからです。実際に試してみても驚くばかり、テレ端（最望遠側）の 200 ミリ（300 ミリ相当）で 1 / 15 秒で撮影してもまったくぶれていないのです！一般的なスナップ撮影はこれ 1 本で OK！ただ、手ブレは補正されても被写体ブレは補正されませんし、手ブレ補正撮影にはちょっとしたコツがいります。また、三脚使用時や高速シャッターなど補正の必要の無い撮影では、補正機能を OFF にした方が、画質が良いということです。

